

都道府県名

福岡県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	八女郡広川町立広川中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 33
学級数	5	6	6	1	18	
生徒数	170	223	202	2	597	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を育てる教科指導の研究
～評価を取り入れた単元計画の工夫を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。

全学年 国語・数学・社会・理科・英語の5教科

教科間の研究格差の弊害をなくし、全教職員の共通意識のもとでの研究推進を図っていくため

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力」を育てる教科指導の研究 ～単元構成の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 各教科において、次のような単元構成の工夫を取り入れれば「確かな学力」を育む生徒が育つであろう。 一単元内に「導入」「展開」「終末」の3段階を設定し、各段階に応じた教材の配列や指導方法の改善を行う。 終末段階を中心に、各単元や各教科特性上の必要に応じて、形成的評価の場と其後の補充・発展的学習の場を設定する。</p> <p>研究の内容・方法 教科部会の充実 ・各教科の基礎・基本の分析 ・年間重点指導項目の確認 ・教科年間研究テーマ作成 ・単元構成・評価の工夫研究 授業研究会の実施 ・平成14年10月17日（指導主事招聘） ・平成15年2月17日（フロンティアスクール実践交流会）</p>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 「確かな学力」を育てる教科指導の研究 ～評価をとり入れた単元計画の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し 各教科学習において、次のような単元計画の工夫を取り入れれば、各教科における「確かな学力」が育つであろう。 一単元内に「導入」「展開」「終末」の3段階を設定し、各段階に応じた教材の配列や指導方法の改善を行う。 単元の必要な段階に、評価の場を取り入れ、実態把握(含生徒の自己分析)、目標の明確化、学習意欲の向上を図る。評価後、補充・発展的学習の場を設定する等個に応じた学習の充実を図る。</p> <p>研究の内容・方法 各教科の年間指導計画における単元の構成、または各単元計画の工夫の研究(指導内容の重点化・統合化、展開や評価方法の工夫) 補充・発展的学習等、個に応じた学習指導の実施方法の研究 単元途中の学習段階で取り入れる、効果的な評価方法の研究 ・単元計画表の作成・活用、教師の評価方法・生徒の自己・相互評価等の開発 教科部会の活性化および教科授業の質の向上に関わる研究 ・教科の研究テーマおよび研究計画の作成 ・教科の研究のまとめ作成 ・研究授業の充実</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学力」を育てる教科指導の研究 ～評価をとり入れた単元計画の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し 各教科学習において、次のような単元計画の工夫を取り入れれば、各教科における「確かな学力」が育つであろう。 一単元内に「導入」「展開」「終末」の3段階を設定し、各段階に応じた教材の配列や指導方法の改善を行う。 単元の必要な段階に、評価の場を取り入れ、実態把握(含生徒の自己分析)、目標の明確化、学習意欲の向上を図る。評価後、補充・発展的学習の場を設定する等個に応じた学習の充実を図る。</p> <p>研究の内容・方法 各教科の年間指導計画における単元の構成、または各単元計画の工夫の研究(指導内容の重点化・統合化、展開や評価方法の工夫) 補充・発展的学習等、個に応じた学習指導の実施方法の研究 単元途中の学習段階で取り入れる、効果的な評価方法の研究 ・単元計画表の作成・活用、教師の評価方法・生徒の自己・相互評価等の開発 教科部会の活性化および教科授業の質の向上に関わる研究 ・教科の研究テーマおよび研究計画の作成 ・教科の研究のまとめ作成 ・研究授業の充実・実践交流会 15年度の研究のまとめを2月末に行う。16年度の研究の内容、方法等が若干変わる可能性もある。</p>
----------------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

<p>研究組織</p> <ul style="list-style-type: none">・15年度は、下記のような研究組織であった。教科指導の研究を中心しているため、研究推進委員会の提起を教科主任が理解しないまま教科部会をするという教科も見受けられるので16年度は研究組織を変更していく。 校長－教頭－研究主任－研究推進委員会(教務主任、学年1名)・16年度の研究組織 上記のことから、研究推進委員を校長、教頭、研究主任、教科群代表(少人数加配教科は研推委)5名とする。 <p>校長-教頭-研究主任</p> <ul style="list-style-type: none">授業研究推進評価研究調査・分析
--

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none">・教科研究計画の作成によって、理論面の調整が進み、教科特性を出すことができた。・単元構成から単元計画全体に研究範囲を広げ、より細かな教科指導を目指すことができた。・授業づくりにおいて、積極的に評価を取り入れることが意識され始めた。・補充的・発展的学習については、80%以上の生徒が肯定的である。・単元学習後に自己評価をさせ、それを授業に生かす教科が増えてきた。
--

2. 今後の課題

<p>* 研究の今後の課題を明らかにするとともに、次年度(最終年度)の研究の方向性が見えるよう記述すること。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・単独の教科担任による補充的・発展的学習の指導・補充学習対象と発展的学習対象の分け方と、その明確な基準の設定・生徒の主体性を引き出す評価のあり方など評価面の研究・学力実態調査から・・・各教科の正答率が低いのが明らかになった。授業の見直し、学習指導の見直しに生かしていく。 <p>国語：書く能力 数学：数学的見方、考え方 英語：表現の能力 社会：社会的な思考・判断 理科：総体的に正答率が低い このことから基礎的・基本的内容の定着を図る指導の徹底</p>
--

学力把握のための学校としての取組

<p>1. 2年生・・・4月、2月の学力分析テストの実施 3年生・・・4月、10月、11月、12月の学力テストの実施 学習についての生徒アンケート(全生徒対象) ・生徒の学習についての実態把握と授業改善に活かす 単元学習後のアンケート・・・基礎的・基本的内容の定着と個に応じた指導</p>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）
 - ・ 6月13日 第1回校内授業研究会
教科研究計画に即した授業実践と研究計画の見直し
 - ・ 6月17日 指導方法工夫改善実践交流会（第2回校内授業研の位置づけ）
対象：管内少人数担当者
 - ・ 10月10日 学力向上フロンティアスクール実践交流会
テーマ：確かな学力を育てる教科指導の研究
対象：福岡県南筑後教育事務所管内中学校教員
参加：参加者数・・・約70名
 - ・ 2月5日 第4回校内授業研究会
授業研究会に際しては、指導主事等を招聘し指導・助言を受ける。
学習指導案は、事前に指導・助言者からの指導を受ける。
授業研究会は、教科で捉える「確かな学力」を身につけさせる上で有効な授業であるかを共通のテーマにしている。
- * 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績（学校としての創意工夫を含む）及び今後の予定
 - ・ パンフレット作成
 - ・ HP上にも記載し、成果と課題を明らかにしていく予定
(<http://www9.ocn.ne.jp/hirotyo/>)
- * フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定
 - ・ 2月17日 倉敷東中学校より来校
 - ・ 2月23日 大牟田市立橘中学校へ
 - ・ 2月25日 大牟田市立船津中学校へ

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無